

認定特定非営利活動法人  
いばらき子どもの虐待防止ネットワークあい

# ニュースレター

第31号

発行日 2021年10月27日  
電話 & FAX 029-309-7690  
電子メール [network-i@ams.odn.ne.jp](mailto:network-i@ams.odn.ne.jp)  
ホームページ <http://network-i.jp/>

## 事業報告

2021年度4月～9月までの事業について報告いたします。

- 4月 8日 第1回 理事会・運営委員会
- 5月 10日 第2回 理事会・運営委員会
- 5月 22日 講演会「子どもたちの生と性を育む性教育」(水戸市)  
第14回 定期総会
- 6月 21日 第3回 理事会・運営委員会及び第12回定期総会
- 7月 16日 第4回 理事会・運営委員会

- 毎週(月・水・木) 10:00～15:00 電話相談実施
- 毎月(第2・3・4木曜日) オレンジサロン実施  
\* 8～9月は新型コロナウイルスによる緊急事態宣言により休止
- 水戸市及び茨城県要保護児童対策地域協議会は書面開催

今年度後半も、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、様々な制約をうけながら活動しています。

12月5日(日)に実施する講演会「子どもが感じる生きづらさ」についても、十分感染予防の対策をとりながら行ないますので、是非ご来場をお待ちしております。





## 4年目の食糧支援

ネットワークあいでは、フードバンクの協力を頂いて、児童養護施設や里親宅から巣立った子ども達に食糧支援を始めて、4年目を迎えました。

この食糧支援には新たに社会に巣立った子ども達への経済的支援の意味もありますが、大切なことは保護されていた環境から自分の判断で生活していかなければならない環境に入って孤立しないように支えることです。これらの子ども達の支え手は、児童養護施設で世話をしてくれた職員の方であり、里親さんです。いくら専門職だといっても、始めて会う人よりは、今まで生活を共にして自分のことを分かってくれている、と思える大人の方が困った時に相談しやすいのではないのでしょうか。

また大変な問題が起きてから相談するのには、とてもエネルギーがいります。「なぜもっと早く言わなかったの」などと叱責されるのではないかと等々、思い悩んでいるうちに時期を逸してしまったり、なおひどい状況に陥ってしまい、自殺や犯罪に走ってしまう事例があります。

普段から「元気?」「何か困ったことはないかな?」と声かけをしてもらって、何気なく話したことから、解決策が分って大変なことにならずにすむ、ということもあるのではないのでしょうか。1人の里親さんから、1人暮らしがうまくいっているか心配で見に行ったところ、「何の用?」と警戒された。という話を聞きました。そこでお米やレトルト食品を渡したところ、とても喜んで、いろいろな話をしてくれた。とか、引越し先を教えてくれた等、つながりが深くなったという話を伺うことができました。

しかし、昨年からの新型コロナウイルスの感染拡大の影響で貧困家庭が急増し、フードバンクの食糧も母子家庭を中心に配布先が急増しているそうです。このためネットワークあいを受けとれる食糧の量が目に見えて少なくなっています。そこで皆様方をお願いします。米・保存のきくレトルト食品缶詰等、提供していただける物がありましたら、是非フードバンクまたは、社会福祉協議会等に設置されている「きずなBOX」または、ネットワークあい事務所に送っていただければ幸いです。



フードバンク茨城 牛久本部 029-874-3001

// 水戸支部 029-297-1477

# ひきこもり・不登校の居場所・相談活動

ひきこもり・不登校／つながり・考える鹿行の会  
世話人代表 小林 幸弘(ネットワークあい会員)

引きこもりの方は、全国で115万人、100世帯に1人と言われており、県内では世帯数が約118万とすると、1万1,800人いると推定されます。

不登校は、全国で18万人、県内では小学校1,204人、中学高2,703人、高校486人、隠れ不登校はその数倍いるといわれています。私が相談にのっている方の中には大学生もおります。

このような状況の中で、私は何をしても、ひきこもり・不登校の当事者や家族が相談や支援につながってほしいと思い、鹿行の会の活動を続けています。居場所や必要と思われる方が身近にいらっしゃったら、ご紹介下さい。

## 【1】 活動内容

- (1) 毎月の例会。場所は銚田市中心公民館。(第3日曜日：午後1:30~4:00)
- (2) 隔月(奇数月)で女子会も開催。月例会の時に女子会コーナーを設置。
- (3) 個別相談。面接を基本にしつつも、電話やメールでの相談も行います。継続的な個別相談では月1回か2回のペースで継続的に行います。
- (4) 学習会・講演会。例会時に、ミニ学習会も行います。また講師をお呼びしての講演会も年1、2回行います。



## 【2】 3人のスタッフ体制

スタッフ①：元ひきこもり経験者。ひきこもりピアサポーター(KHJ全国ひきこもり家族連合会認定)

スタッフ②：精神保健福祉士。社会福祉士。保育士。

スタッフ③：教育カウンセラー。アドラー心理学ELMリーダー(ヒューマンギルド認定)

## 【3】 私たちの基本姿勢

家族同士の、または家族と支援者の対話によって解決・改善・回復の道を探ります。

理解①——対応①

理解②——対応②

理解③——対応③

【理解と対応】の積み重ねを通して、親子の関係性が変わり、子どもが変わっていきます。多くの実践事例から回復過程の教訓が生まれています。ご一緒に人間理解研究とよりよい生き方・個人が生きる道を探っていきましょう。

## 【4】 連絡先(世話人代表・小林幸弘)

電話&ショートメール 080-3277-2002

FAX 0291-39-7008

メール [yukki.hati@gmail.com](mailto:yukki.hati@gmail.com)

# 子どもへの暴力防止プログラム CAP（キャップ）

桜井みどり（ネットワークあい会員）

「子どもの時に CAP を受けていたら、私の人生変わっていた。」

そう話してくれたのは、2000 年 5 月 CAP スペシャリスト養成講座で出会った女性でした。

彼女は性虐待を受けて育った人でした。

## 【CAP (Child Assault Prevention) とは・・・】

1978 年アメリカ・オハイオ州で起きた小学校 2 年生の女兒に対するレイプ事件をきっかけに考えられた「子どもへの暴力防止プログラム」です。性暴力のみならず、いじめ、誘拐等あらゆる暴力から「子どもが自分を守る」ことができるよう考えられています。

子どもたちに向けて、ワークショップ形式で話を進めます。

「あなたは、『安心』して『自信』を持って『自由』に生きる権利を持った大切な人」

「その大切なあなたに、誰かが暴力を振ると、大切な 3 つの権利がとられてしまう。」

短い劇を見てもらいながら、子どもたちの気持ちや考えを引き出し、

いやだな、怖いなと思ったときは、

「いやとっていい」「逃げていい」「信頼できる人に相談しよう」

と、繰り返し伝えるものです。

- 告げ口と相談の違い
- 知らない人との安全な距離の取り方
- 知らない人に会って怖くなったら、特別な叫び声（疝高い声でなく低くて大きな声）を出して叫んで逃げる。簡単な護身術を使って逃げる隙を作る。
- 知っている人の中には、いやな触り方をする人もいる。
- 性被害は女の子にも男の子にも起きる。いやとっていい。逃げていい。
- 怖い秘密は守らないで信頼できる大人に話す。信じてもらえないときは話を信じて力になってくれる人が出てくるまであきらめないで話し続ける。
- いやと言えなくても逃げるのが出来なくても、被害者は何も悪くない。

等々、暴力についての正しい知識やスキルを学びます。暴力という怖いテーマですが、劇を使って子どもたちが楽しく学べる工夫が凝らされています。その後 30 分ほど「トークタイム」という時間を取ります。内容の練習や復習をしたり、心配事を相談してきいたり、時には虐待やDVなど今まで誰にも言えなかった事実を打ち明ける子どももいます。それは暴力や虐待を止めるきっかけとなります。

このプログラム全体に貫かれている思想は、エンパワメントです。子どもたちの力を信じ、子どもたちの気持ちや考えを聴き、暴力についての正しい知識を伝えつつ、子どもたちが自分を守る力や友だちを守る力を発揮できるよう勇気づける働きかけです。子どもたちが本来持っている力を引き出します。

CAP 子どもワークショップには、子どもたちの年齢・状況に応じて、小学生プログラム、就学前プログラム、中高生プログラム、スペシャルニーズプログラム、児童養護施設プログラムがあります。

学校、幼稚園・保育園、児童養護施設等の依頼で実施されます。

茨城県内では、水戸市は「いじめ対策ふれあいプラン」として教育委員会の事業の中に取り上げています。また、かすみがうら市はいじめ対策事業として全小学校で実施、毎年4年生が受講しています。

- ✦ 安心・自信・自由の権利があると分かって、嬉しいです。
- ✦ 安心・自信・自由の権利、大切に守ります。
- ✦ 今日はとても楽しかったです。いじめられている子の友達役(助ける役)もやれて楽しかったです。
- ✦ 今までAちゃんをいじめてたけど、Aちゃんの安心・自信・自由を取ってたんだと、今日わかりました。もうしません。  
(参加した子どもたちの感想より)

### 【子どもワークショップの前に・・・】

子どもワークショップを行う前には、大人ワークショップ(①教職員対象 ②保護者対象)を実施しています。家庭・学校・地域が共通理解しておくことは、子どもたちの孤立を防ぎ、子どもたちが自分を守る力を発揮するために大きな支えとなります。

#### ①教職員ワークショップ(単独でも実施できます。)

- ・子どもの人権を尊重し、エンパワメントの支援の在り方を理解する。
- ・いじめ、虐待、性暴力などについて正しい知識を得る。
- ・虐待の早期発見の仕方や緊急介入について学ぶ。



#### ②保護者ワークショップ(単独でも実施できます。)

- ・子どもの人権や暴力について理解を深め、子どもを暴力の被害者にも加害者にもしないために何ができるか考える。
- ・子どもが相談してきたときの傾聴を体験して学ぶ。

- ✦ これまでも「いじめ」は絶対にあってはならない行為と分かっていましたが、どこかでいじめられた側にも何らかの原因があったのではと考えてしまう事がありました。「いじめられていい子など1人もいない」改めて、子どもに関わる姿勢を認識し、自分のすべき役割の重さを実感しました。
- ✦ 小学生～高校生の自殺が報道されていて、自死しか選択肢がなかった現状を想像すると胸が痛い。人権について教師の理解が甘いのだと思う。もっと研修し意識を高めたいと思う。傾聴の大切さ=安心感
- ✦ 今まで親の立場で子どもに色々言っていたけど、今回子どもの立場に立って、いろいろ考えられたことはとてもいい機会だったと思います。
- ✦ いじめる子のケアが必要だということは「なるほど」と思った。
- ✦ 性暴力についてもタブーなく実演(対処法)してもらえたので、他人に伝える勇気がついたと思う。  
(参加した教職員・保護者の感想より)

子どもを取り巻く暴力は、目に見える身体的なものや心理的なもの、性的なものなど様々ありますが、どれも子どもに深い傷を残します。不安と恐怖、無力感を募らせ力を奪われていきます。その苦しみを自分の心と体に向けたり、自分より弱いものを攻撃することで自分を何とか保とうとすることもあります。小さい頃から「安心・自信・自由」の権利を教え、暴力に対する予防教育を行うことが大切です。

## 2021 年度会費納入のお願い

会員の皆様には、日頃から NPO 法人いばらき子どもの虐待防止ネットワークあいの活動にご理解を頂きまして、ありがとうございます。

あいは、会員の皆様の会費と活動に賛同して下さる皆様からの温かい寄付によって活動しております。あいの活動を継続していくために、本年度(2021 年度)会費を納入いただけますようお願いいたします。なお、既に納入頂いた会員様には心より感謝し、お礼を申し上げます。

\*ATM 払込取扱票を利用してお振込みをされる場合、名前等の記入をお忘れなくお願いします。

〈ゆうちょ銀行〉 (払込取扱票)

口座番号 00130-3-600272

口座名 いばらき子どもの虐待防止ネットワークあい

### — 会員募集中 —

◆正会員 5,000 円/年

・正会員の方は、総会に出席し、決議権があります。

◆賛助会員 3,000 円/年

・賛助会員会費は、寄付金扱いとなり、所得控除が受けられます。

●寄付のお願いです

◆子供服・・(幼児 2 才~6 才程度)

・未使用もしくは、美品で寄付をして頂ける品物があれば連絡をお願いします。

●ボランティア募集

・あなたの空き時間(月・水・木 10:00~15:00)を提供していただけませんか・・

“NPO 法人いばらき子どもの虐待防止ネットワークあい”の  
事業活動運営に、ご協力をお願いします。

☎ **029-309-7690**

